

第1章 地域イメージ・地域評価および住居価値観

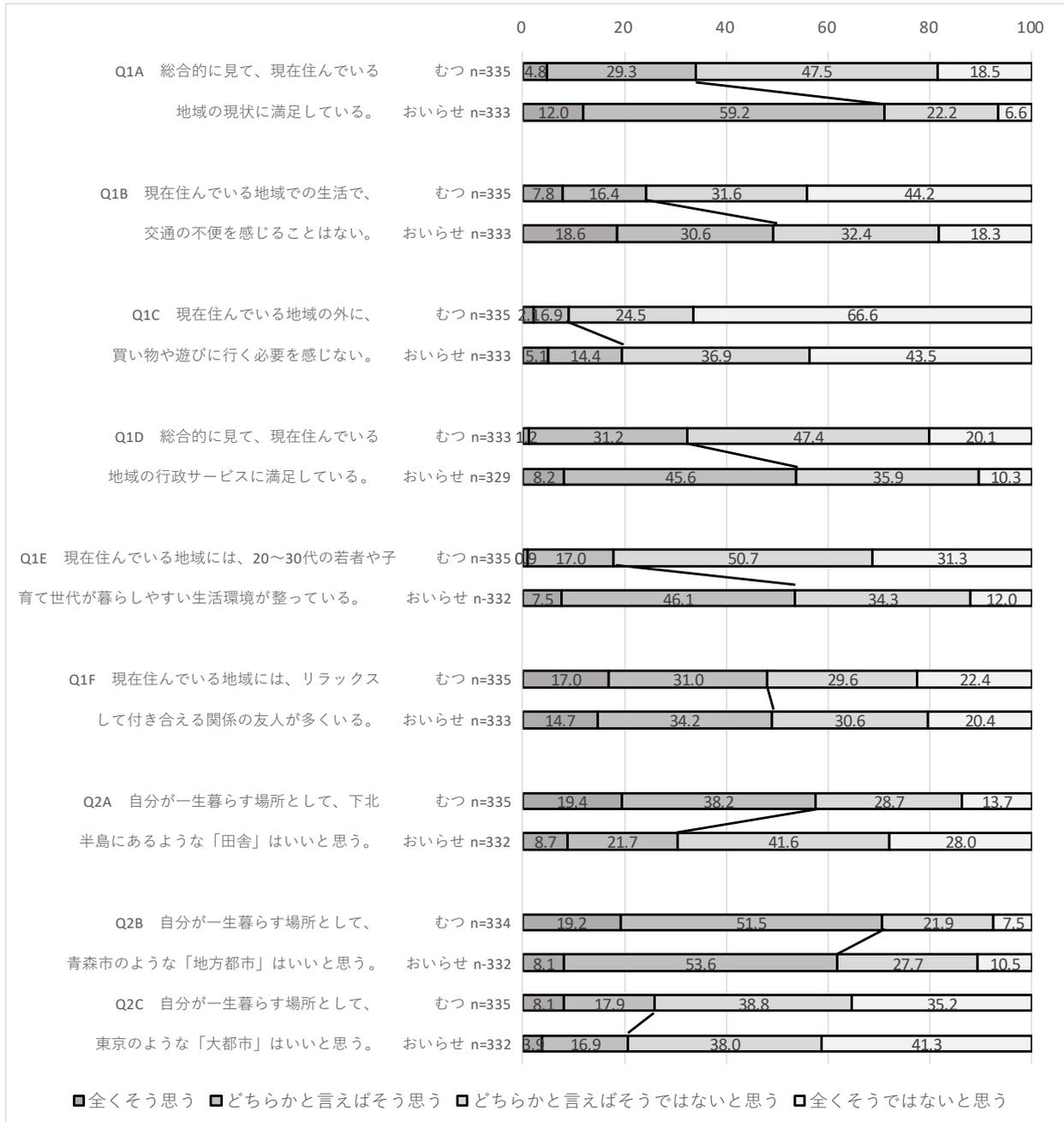
寺地幹人（茨城大学）

本章では、地域イメージ・地域評価（Q1）に関する項目の一部（A～F）と、住居価値観（Q2）の項目の一部（A～C）に関して、集計結果を解説する。

1-1. 地域ごとの相対度数

むつ市とおいらせ町の回答分布をグラフで示し、肯定回答（全くそう思う＋どちらかと言えばそう思う）と否定回答（どちらかと言えばそうではないと思う＋全くそうではないと思う）の境の位置を実線で結び、比較している。

横軸：%



地域に対する総合的な満足（Q1A）および交通不便の感じなさ（Q1B）、地域外へ買い物・遊びに行く必要性（Q1C）、行政サービスへの満足（Q1D）、若者・子育て世代環境への評価（Q1E）のすべてが、おいらせ町の方がむつ市より目に見えて高い。一方で、友人の豊富さ（Q1F）に関しては、両地域の分布に大差

はない。これらは、轡田竜蔵（2017）が示した、地方中枢都市／条件不利地域¹での地域評価の関係のパターンと同様である。

肯定する地域規模（Q2A～Q2C）に関しては、田舎に対する肯定度合、地方都市に対する肯定度合、大都市に対する肯定度合のすべてに関して、むつ市の方が高い。これら3つがともに高いことは、＜都市⇄田舎＞という図式を仮定する場合、やや不思議に見える²。この点に関しては、それぞれの地域内でどういった人たちがこれを肯定しているか、細分化して見ていくことも必要となる。

1-2. 地域ごとの変数間関係

細分化して見ていくために、本章で扱う項目と回答者の社会的属性の関係を分析する必要がある。しかしその前に、各項目どうしの関係を把握することで、いくつかの回答を総合的にささえる意識の存在を推察したり、イメージ・評価・価値観の関係パターンから地域の特性を考察する。以下は、両地域での、担当変数間の相関分析（ピアソンの順位相関）の結果である³。

＜地域に対する総合的な満足（Q1A）＞は、両地域とも、他のすべての変数と有意に関連している。両地域とも、Q1B～Q2Bは正の相関であり、大都市の肯定（Q2C）のみ負の相関になっている。このように、地方中枢都市と条件不利地域で、総合的な地域満足と各種地域評価・地域イメージの間の関係の形は変わらないが、むつ市は友人の豊富さ（Q1F）と強く相関し、おいらせ町は行政サービスへの満足（Q1D）や若者・子育て世代環境への評価（Q1E）といった行政・制度的住環境と強く相関する。ここから、条件不利地域に対応するむつ市では、環境面の不十分さを人間関係が補填して地域に満足している可能性があることが、推察される。

その他、他の変数との関連が両地域で同形な変数は、＜地域外へ買い物・遊びに行く必要性（Q1C）＞であり、総合的な満足（Q1A）、交通不便の感じなさ（Q1B）、行政サービスへの満足（Q1D）、若者・子育て世代環境への評価（Q1E）、田舎の肯定（Q2A）と正の相関になっている。

一方、上記2つ（Q1AおよびQ1C）以外の他の項目に関しては、両地域で以下の違いが見られる。統計的有意性および相関の方向性が両地域で同じ部分は省略し、両地域で異なっている部分のみを以下に説明していく。

＜交通不便の感じなさ（Q1B）＞に関して、むつ市のみ田舎の肯定（Q2A）と正の相関、おいらせ町のみ友人の豊富さ（Q1F）と正の相関になっている。これだけでは変数間の因果関係の推察は難しいので、田舎の肯定や友人関係の豊富さが他のどういった変数と関連しているか、詳細な分析をしていく際には、確認する必要がある。

＜行政サービスへの満足（Q1D）＞に関して、おいらせ町のみ、友人の豊富さ（Q1F）および田舎の肯定（Q2A）とそれぞれ正の相関に、大都市の肯定（Q2C）と負の相関になっている。都会的な生活を望まずに、かつ現実には住んでいないからこそかもしれないが田舎を肯定することができ、友人にも恵まれているような人ほど、現在の行政・制度的住環境に満足している。

¹ 轡田（2015）（2017）の広島調査と対応させ、本章においては、おいらせ町を地方中枢都市（八戸市近郊）かつQ2A～Q2Cにおける「地方都市」、むつ市を条件不利地域かつQ2A～Q2Cにおける「田舎」という位置づけで、扱う。

² ただし轡田は、これら3つのうち2つに関して、「必ずしも『田舎志向』と『地方都市志向』が対立するわけではない」（轡田 2015: 64）と述べている。

³ 統計的に有意なセルを灰色にし、その中で正の相関のセルを太字にしている。

むつ		問1B：B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C：C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D：D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E：E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F：F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	問2A：A 自分が一生涯らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B：B 自分が一生涯らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C：C 自分が一生涯らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
問1A：A 総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N	.382** .000 335	.310** .000 335	.380** .000 333	.374** .000 335	.174** .001 335	.414** .000 335	.139* .011 334	-.135* .013 335
問1B：B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N		.186** .001 335	.175** .001 333	.230** .000 335	.088 .107 335	.229** .000 335	.023 .679 334	-.124* .023 335
問1C：C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N			.137* .012 333	.110* .044 335	-.101 .064 335	.122* .025 335	-.100 .068 334	-.064 .240 335
問1D：D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N				.502** .000 333	.071 .197 333	.089 .105 333	.156** .004 332	.019 .724 333
問1E：E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N					.132* .016 335	.100 .066 335	.115* .035 334	-.057 .299 335
問1F：F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N						.312** .000 335	.048 .381 334	-.109* .046 335
問2A：A 自分が一生涯らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N							.122* .026 334	-.282** .000 335
問2B：B 自分が一生涯らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N								-.085 .122 334

** 1%水準で有意（両側） / * 5%水準で有意（両側）

おいらせ		問1B：B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C：C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D：D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E：E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F：F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	問2A：A 自分が一生涯らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B：B 自分が一生涯らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C：C 自分が一生涯らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
問1A：A 総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N	.393** .000 333	.254** .000 333	.537** .000 329	.527** .000 332	.240** .000 333	.189** .001 332	.177** .001 332	-.221** .000 332
問1B：B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N		.305** .000 333	.227** .000 329	.288** .000 332	.191** .000 333	.092 .095 332	.064 .242 332	-.107 .051 332
問1C：C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N			.333** .000 329	.295** .000 332	.044 .427 333	.133* .015 332	.070 .203 332	-.071 .195 332
問1D：D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N				.639** .000 328	.194** .000 329	.146** .008 328	.133* .016 328	-.123* .026 328
問1E：E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N					.245** .000 332	.165** .003 331	.250** .000 331	-.128* .020 331
問1F：F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N						.034 .536 332	.150** .006 332	-.148** .007 332
問2A：A 自分が一生涯らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N							.076 .168 332	-.086 .120 332
問2B：B 自分が一生涯らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	Pearsonの相関係数 有意確率（両側） N								.003 .958 332

** 1%水準で有意（両側） / * 5%水準で有意（両側）

<若者・子育て世代環境への評価 (Q1E)>に関して、おいらせ町のみ、田舎の肯定 (Q2A) と正の相関、大都市の肯定 (Q2C) と負の相関になっている。現実には住んでいないタイプの地域の肯定が、現在の環境の満足に関連しているか、不満に関連しているか、両方の側面をもつ。

<友人の豊富さ (Q1F)>に関して、むつ市のみ田舎の肯定 (Q2A) と正の相関、おいらせ町のみ、交通不便の感じなさ (Q1B)、行政サービスへの満足 (Q1D)、地方都市の肯定 (Q2B) と正の相関になっている。因果の向きは不明だが、両地域とも現在住んでいるタイプの地域への肯定と友人の豊富さは比例している点は共通しており、かつ、地方中枢都市でのみ、現在の交通環境や制度的住環境への肯定的評価にも比例する。「田舎」では、総合的な地域満足が辛うじて友人関係に下支えされているが、友人関係に恵まれているような状態がより複数種の地域評価に比例する状態は、「田舎」にはない。

<田舎の肯定 (Q2A)>に関しては、むつ市のみ、交通不便の感じなさ (Q1B)、友人の豊富さ (Q1F)、地方都市の肯定 (Q2B) と正の相関、大都市の肯定 (Q2C) と負の相関になっている。一方でおいらせ町のみ、行政サービスへの満足 (Q1D) および若者・子育て世代環境への評価 (Q1E) と、それぞれ正の相関になっている。

<地方都市の肯定 (Q2B)>に関して、むつ市のみ田舎の肯定 (Q2A) と正の相関、大都市の肯定 (Q2C) と負の相関になっている。一方で、おいらせ町のみ友人の豊富さ (Q1F) と正の相関になっている。

両項目 (Q2AおよびQ2B) とともに、現在住んでいるタイプの地域に対する肯定は、友人関係の豊富さと比例しており、かつ条件不利地域であるむつ市においてのみ、田舎や地方都市での生活を肯定することと、大都市での生活を否定することとが、結びついている。

1-3. 各地域での社会的属性との関係

以下は、両地域において、担当項目と回答者の社会的属性の関連を確認した結果である⁴。

	問1A:A 総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	問1B:B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C:C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D:D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E:E 現在住んでいる地域には、20~30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F:F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多い。	問2A:A 自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B:B 自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C:C 自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
性別 (男性/女性)	むつ						*		
(クロス分析)	おいらせ						*		
年齢	むつ								
(相関分析)	おいらせ						**		**
婚姻 (結婚/独身)	むつ								
(クロス分析)	おいらせ								**
世帯年収	むつ					**			
(相関分析)	おいらせ								
最終学歴 (大学院・大学・短大/左記以外)	むつ								
(クロス分析)	おいらせ							*	
移動 (ずっと地元/Uターン/Iターン)	むつ					***	***		
(クロス分析)	おいらせ		**						

相関分析に関しては、正・負の方向性を表から判断可能なので、関連の方向性が表からだけでは不明なクロス分析についてのみ、以下に説明する。

両地域とも、性別と田舎の肯定 (Q2A) に有意な関連があるが、むつ市では女性の方が男性より否定的なのに対し、おいらせ町では女性の方が肯定的な結果となっている (表省略)。

おいらせ町において、婚姻と大都市の肯定 (Q2C) が有意に関連しているが、既婚は「全くそう思わない」の割合が高く、独身 (離婚・死別・未婚) は「どちらかと言えばそうではないと思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合が高い (残差分析より・表省略)。

⁴ 相関分析の結果においては、二重下線ありかつ灰色塗りが負の相関、下線・灰色塗りが正の相関となっている (アスタリスク1つが5%水準、2つが1%水準で統計的に有意)。クロス分析では χ^2 検定を行いその結果を記載しているが (アスタリスク1つが5%水準、2つが1%水準、3つが0.1%水準で統計的に有意)、期待値5未満のセル数がセル数全体の20%を超えたものについては除外している。

おいらせ町において、学歴⁵と地方都市の肯定（Q2B）が有意に関連しているが、大卒層が「どちらかと言えばそう思う」の割合が高く、非大卒層は「どちらかと言えばそうではないと思う」の割合が高い（残差分析より・表省略）。

移動⁶に関しては、両地域で有意に関連している項目が異なる。むつ市では友人の豊富さ（Q1F）に関して、最も肯定している割合「全くそう思う」の割合および肯定回答（全くそう思う＋どちらかと言えばそう思う）の割合は、意外にも、ずっと地元の者よりもUターン者の方が大きくなっている（以下の表参照）。ずっと地元にいる方が一度離れた者よりその地域の友人関係が豊かかかという、そうではない結果となっている。

		問1F:F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多い。 全くそうではないと思う どちらかと言えばそうではないと思う どちらかと言えばそう思う 全くそう思う				合計
ずっと地元	度数	15	22	28	15	80
	行%	18.8%	27.5%	35.0%	18.8%	100.0%
	調整済み残差	-0.9	-0.5	1.0	0.5	
Uターン	度数	27	36	49	34	146
	行%	18.5%	24.7%	33.6%	23.3%	100.0%
	調整済み残差	-1.6	-1.8	1.0	2.7	
Iターン	度数	31	38	22	6	97
	行%	32.0%	39.2%	22.7%	6.2%	100.0%
	調整済み残差	2.6	2.4	-2.0	-3.4	
合計	度数	73	96	99	55	323
	行%	22.6%	29.7%	30.7%	17.0%	100.0%

また、むつ市では田舎の肯定（Q2A）に関して、ずっと地元>Uターン>Iターンの順に肯定的であるという、予想通りの結果が出ている（以下の表参照）。

		問2A:A 自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。 全くそうではないと思う どちらかと言えばそうではないと思う どちらかと言えばそう思う 全くそう思う				合計
ずっと地元	度数	2	22	36	20	80
	行%	2.5%	27.5%	45.0%	25.0%	100.0%
	調整済み残差	-3.4	-0.2	1.4	1.5	
Uターン	度数	18	39	56	33	146
	行%	12.3%	26.7%	38.4%	22.6%	100.0%
	調整済み残差	-0.8	-0.6	0.0	1.4	
Iターン	度数	25	31	32	9	97
	行%	25.8%	32.0%	33.0%	9.3%	100.0%
	調整済み残差	4.0	0.9	-1.3	-3.0	
合計	度数	45	92	124	62	323
	行%	13.9%	28.5%	38.4%	19.2%	100.0%

おいらせ町では、交通不便の感じなさ（Q1B）に関して、ずっと地元の者が最も肯定している（＝不便に感じない）（以下の表参照）。これには、慣れやその地域の状況への割り切り（不便さが割り切れる程度であること）などが関連していると考えられる。

一方、交通不便の感じなさへの否定回答（どちらかと言えばそうではないと思う＋全くそうではないと思う）の割合が最も大きいのはIターン者であるが、最も否定している「全くそうではないと思う」の割合はUターン者の方が大きい（以下の表参照）。また、Iターン者において、どちらかと言えば不便を感じることはないと思っている者の割合は、期待値に比べて有意に小さくなっている（残差分析・1%水準）。おいらせ町の交通不便に関するこうした結果には、Uターン者におけるターン前の地域との比較による否定的評価や、Iターン者における現在の地域への割り切りなどが関係していると、推察できる。

⁵ 吉川徹（2009）を参照し、最終学歴が大学院・大学・短大とそれら以外の2カテゴリーで、分析した。

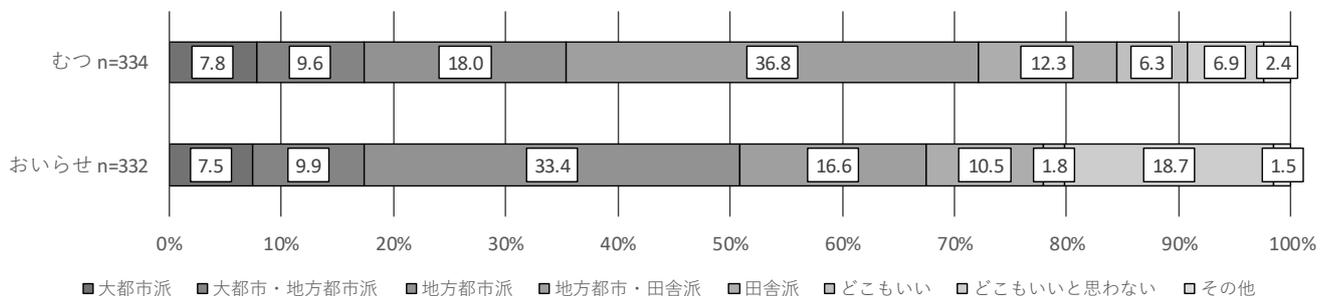
⁶ Q5で、Aと回答した者を「ずっと地元」、BないしCと回答した者を「Uターン」、D～Hのいずれかを回答した者を「Iターン」とした（Iと回答した者は除外した）。

		問1B:B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。 全くそうではないと どちらかと言えば どちらかと言えば 全くそう思う 思う そうではないと思う そう思う				合計
ずっと地元	度数	6	21	36	18	81
	行%	7.4%	25.9%	44.4%	22.2%	100.0%
	調整済み残差	-3.1	-1.5	3.3	1.0	
Uターン	度数	30	36	35	17	118
	行%	25.4%	30.5%	29.7%	14.4%	100.0%
	調整済み残差	2.2	-0.6	-0.1	-1.4	
Iターン	度数	25	47	25	24	121
	行%	20.7%	38.8%	20.7%	19.8%	100.0%
	調整済み残差	0.6	1.9	-2.8	0.5	
合計	度数	61	104	96	59	320
	行%	19.1%	32.5%	30.0%	18.4%	100.0%

1-4. <田舎志向/地方都市志向/大都会志向>のパターン

本章では最後に轡田（2015：64-5, 152）を参考に、<田舎の肯定（Q2A）><地方都市の肯定（Q2B）><大都市の肯定（Q2C）>の3つに関して、それぞれの項目が肯定回答と否定回答のいずれであるかを組み合わせ⁷、そのパターンの割合を算出する。

むつ市とおいらせ町、それぞれの結果は以下の通りとなった。



むつ市では<地方都市・田舎派>が最も多く36.8%であるのに対し、おいらせ町では<地方都市派>が最も多く33.4%であった。両地域において、大都市を含むカテゴリー（<大都市派><大都市・地方都市派>）の割合にほぼ違いはないが、<地方都市派>の割合と田舎を含むカテゴリーの割合に、違いが見られる。

ちなみに、轡田（2015：152）による広島調査の分布と比較する⁸と、条件不利地域の方（三次市およびむつ市）の分布はおおむね類似しているが、地方中枢都市の方の分布は、やや異なっている。府中町では<地方都市派>が43.0%だったのに対しおいらせ町では33.4%で、また、府中町では<地方都市・田舎派>が33.1%だったのに対しおいらせ町では16.6%で、かなり違いがある。一方で、轡田（2015：152）の府中町では<その他>（8.0%）に含まれているが、上のグラフでは独立させて集計した<どこもいいとは思わない>（Q2A～Q2Cいずれにも否定回答）の割合がおいらせ町において18.7%で、2番目に多くなっている⁹。このようになった原因として、調査項目の作成の際に、「青森市のような『地方都市』はいいと思う」というワーディングにしてしまったことが考えられる。

今回は両地域の単純な分布の比較や、2変数の分析が中心だったが、社会的属性を統制した分析や、他の意識項目との関連が、今後の分析の課題となる。

文献

吉川徹, 2009, 『学歴分断社会』 筑摩書房。

轡田竜蔵, 2015, 『「広島20-30代住民意識調査」報告書（統計分析編）』 公益財団法人マツダ財団。

轡田竜蔵, 2017, 『地方暮らしの幸福と若者』 勁草書房。

⁷ 3つの項目がいずれか一つでも無回答の場合には、分析から除外した。

⁸ 轡田（2015：152）にあるグラフは地方中枢都市が上、条件不利地域が下になっているが、今回は本章1節と合わせるために、それとは逆になっているので、比較する際には注意が必要である。

⁹ この点が、1-1の最後に記した、肯定する地域規模の3項目がともにむつ市の方が高いことにも、関連している可能性が考えられる。